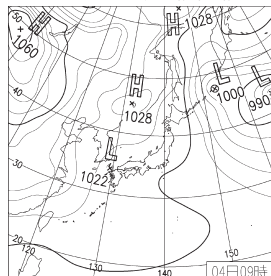


日々の天気図

— No. 157

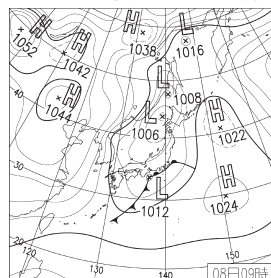
2015年2月

- ・4日、北海道上川地方で強い冷え込み、最低気温は朱鞠内 -30.9°C 、幌加内 -30.5°C 、江丹別 -30.2°C 。
- ・9日、北陸などで大雪、日降雪量は新潟県小出72 cm、十日町71 cm。
- ・27日、沖縄県で高温、最高気温は波照間 27.9°C 、与那国島 27.7°C 、共に2月の1位更新。
(気象庁予報部予報課)



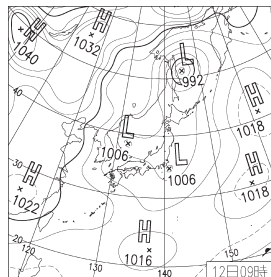
4日(水) 気圧の谷通過

湿った気流の影響で沖縄・奄美は曇りや雨、低気圧の影響で午後には西日本でも曇りや雨。東海、関東甲信や北海道は概ね晴れ。北海道上川地方の3地点で最低気温 -30°C 以下。



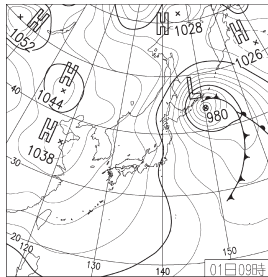
8日(日) 二つ玉低気圧

低気圧が北海道付近へ進み、西から冬型の気圧配置に。低気圧に伴う雨雲が日本付近を通過した後、西〜北日本の日本海側は寒気による雨や雪、マージナル諸島で台風第2号発生。



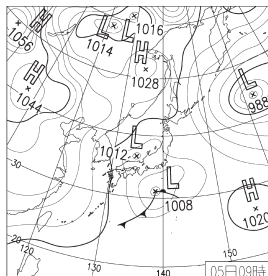
12日(木) 上空に寒気入る

本州の上空約5500 mに -30°C 以下の寒気、西〜北日本の日本海側から雨雲、雪雲が拡大、夜には太平洋側の一部にも広がる。北陸を中心に西日本〜東北で雷、岡山市でウメ開花。



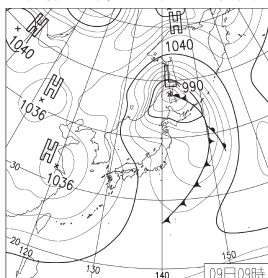
1日(日) 冬型の気圧配置続く

日本海側や北海道釧路、根室地方で雪、北日本の沿岸部を中心に強風、所々で暴風雪、北海道釧白で日降雪量71 cm、最大瞬間風速 33.3 m/s 、高松でウメ開花、石川県で震度4。



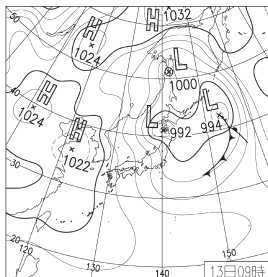
5日(木) 広範囲でみぞれや雪

西日本では低気圧と寒気流入によりみぞれや雪、鳥取ではひょうを観測。東海〜関東も、発達中の低気圧の影響でみぞれや雪、その他は晴れや曇り、名古屋市、銚子市でウメ開花。



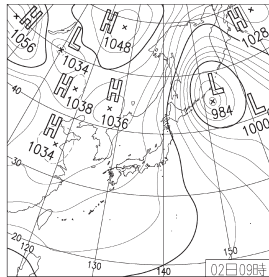
9日(月) 寒い一日

強い寒気に覆われ、風が強く寒い一日、北陸を中心に本州で大雪、新潟県小出で日降雪量72 cm、北海道えりも岬で最大瞬間風速 30.5 m/s 、全国の9割に近い810地点で冬日。



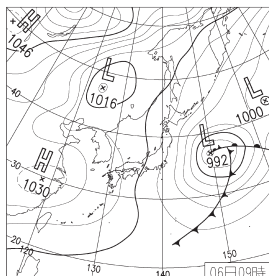
13日(金) 北日本はふぶき

低気圧南側にあたる東北の日本海側を中心に記録的暴風、山形県飛島で2月の1位記録を更新する最大風速 38.8 m/s 、岐阜県白川で日降雪量46 cm、南大東村でヒカンザクラ満開。



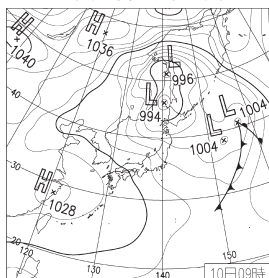
2日(月) 大雪で列車立ち往生

千島近海の低気圧はほとんど停滞、冬型の気圧配置続く。北海道弟子屈で最大瞬間風速 31.2 m/s 、釧白の最深積雪179 cmは史上1位、青森県内も大雪で寝台特急が立ち往生。



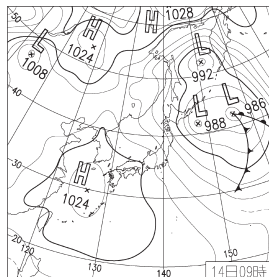
6日(金) 北海道冷え込む

一時的に冬型の気圧配置。北海道上川地方では、23地点中22地点で最低気温が -20°C 以下、札幌は最低気温が今季初めて -10°C 以下となり、 -10.1°C 。徳島県で震度5強。



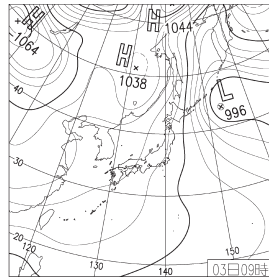
10日(火) 寒さ続く

寒気流入は次第に弱まったが冬型の気圧配置が続き、福島県西会津で日降雪量45 cm、秋田県鹿角の最深積雪130 cmは史上1位、732地点で冬日、東京も最低気温 -2.4°C で今季最低。



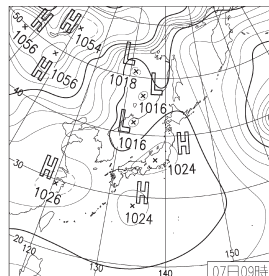
14日(土) 日本海側は雪

冬型の気圧配置の影響で、近畿以北の日本海側は雪、高気圧に覆われた沖縄・奄美、西日本の大部分と東〜北日本の太平洋側は晴れ、福島県松枝枝で日降雪量58 cm。



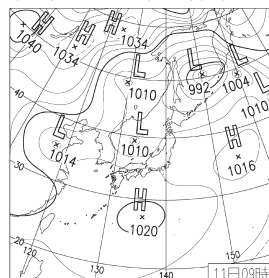
3日(火) 冬型緩む

低気圧は千島近海で次第に衰弱、冬型の気圧配置は西から弱まる。沖縄・奄美は湿った気流の影響で雨、西〜北日本は太平洋側を中心に概ね晴れたが、日本海側は所々で雪か雨。



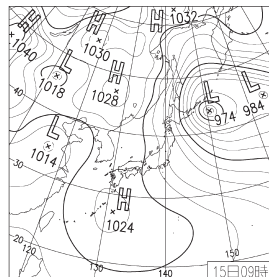
7日(土) 次第に雲域広がる

日本付近を覆った高気圧は足早に去り、日本海〜西日本で気圧の谷が次第に深まる。朝は広く晴れた本州付近も次第に雲が広がり、所々で小雨、北日本の気温は平年より高め。



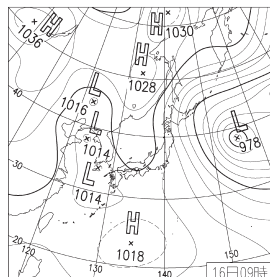
11日(水) 沖縄・奄美で低温

沖縄・奄美に寒気が南下、鹿児島県笠利の最低気温 4.4°C と沖縄県粟国の同 5.6°C は観測史上1位を更新、最高気温は全国的に前日より高く、西〜東日本では3月並の地点も。



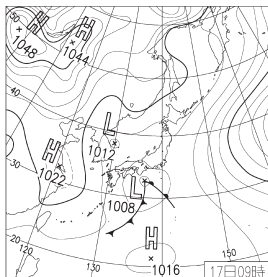
15日(日) 北日本 ふぶきなど荒天

発達した低気圧が千島近海にあり、北日本を中心に強い冬型の気圧配置、日本海側は北陸以北で雪、北日本太平洋側を中心に暴風や暴風雪、北海道弟子屈で最大瞬間風速 34.9 m/s 。



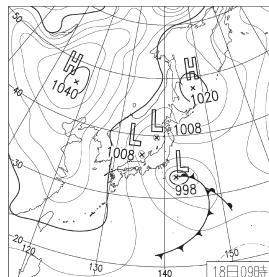
16日(月)西から雨

低気圧の東進に伴い、九州で降り始めた雨の範囲が次第に西日本全体へと広がる。北日本は沿岸部を中心に強風。鹿児島県宝島で45 mm/1hの激しい雨。鳥取市、神戸市でウメ開花。



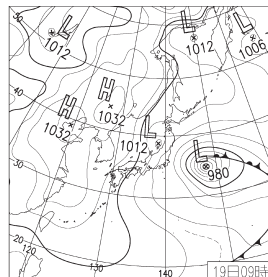
17日(火)東北で強い揺れ2回

低気圧が日本海と本州南岸を東進し、西～東日本の広い範囲で雨や雪。東京も9時頃に一時雪。朝、宮城など東北4県で震度4。昼過ぎに青森県で震度5強、岩手県で5弱。



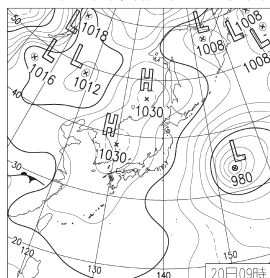
18日(水)関東 気温上がらず

沖縄・奄美は高気圧が張り出し晴れ。西日本は冬型の気圧配置で日本海側は雨。太平洋側は晴れ。東～北日本は低気圧により雨や雪が降り、特に関東は最高気温が3～5℃と寒い。



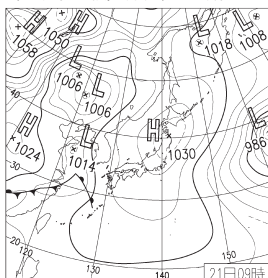
19日(木)西～東日本で冬型

西～東日本を中心に冬型の気圧配置となり、九州～北陸の日本海側で雪や雨。四国や近畿の太平洋側でも一部で雨。北海道では気温が上がり最高気温は所々で3月下旬並に。



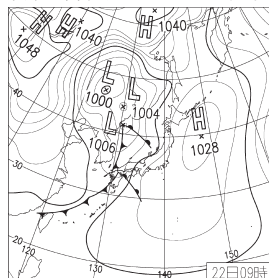
20日(金)長野県で大雪

寒気流入の続いた北陸を中心に曇りや雪。長野県北部で大雪、信濃町では最深積雪が176 cmとなり観測史上1位。その他の地方は晴れや曇り。和歌山市でウメ開花。



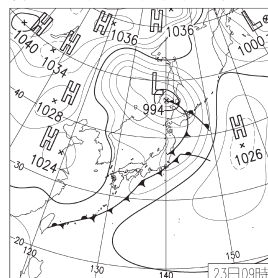
21日(土)西から雨

高気圧に覆われて広く晴れたが、前線の接近に伴って午後は西日本で雨域広がる。日中の最高気温は、平年並となった四国や東海～関東の太平洋沿岸部を除き3月並とやや高め。



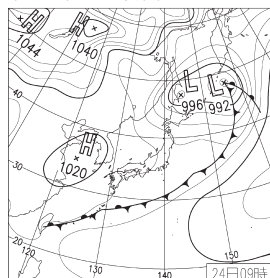
22日(日)4つの地方で春一番

日本海低気圧の発達で南寄りの風が強まり九州北部、四国、中国、北陸で春一番。広範囲で気温が上昇、特に北陸は、石川県輪島で最高気温が平年差+12.6℃の19.6℃など高温に。



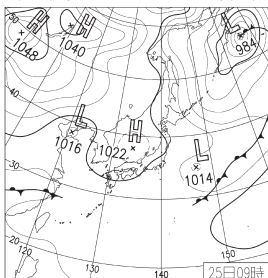
23日(月)全国的に高温続く

低気圧は日本海北部を北東進し、前線が東～北日本を通過。沖縄・奄美は前線が残り雨。西～北日本は概ね晴れたが、東～北日本では朝まで雨。西日本と北陸で黄砂を観測。



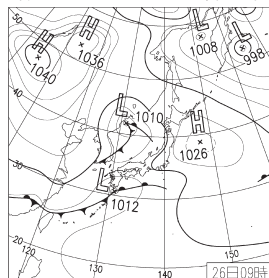
24日(火)東北でも黄砂

日本海に高気圧が張り出すが、南岸の前線の影響で西～東日本は雲が多く、沖縄・奄美は曇りや雨。寒気が入った北陸や北日本では雪や雨。黄砂の観測範囲は東北にも拡大。



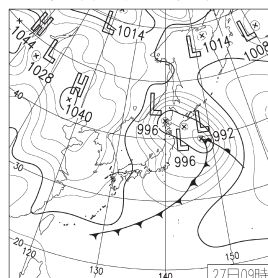
25日(水)高気圧に覆われる

移動性高気圧が本州を東進、全国的には晴れた所が多い。しかし、午後には東シナ海の前線に伴う雨雲が九州・四国に広がり、北陸と北日本日本海側にも寒気により所々で雨や雪。



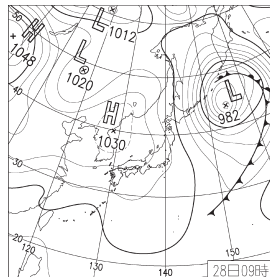
26日(木)全国的に雨や雪

低気圧が南岸を進み、前日からの西日本太平洋側の雨域は東日本にも広がる。沖縄・奄美では所々で雷雨。北日本は日本海の低気圧が発達しながら接近し、晴れから雪に。



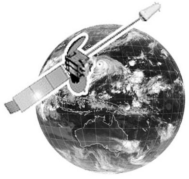
27日(金)北海道で大雪

発達中の低気圧の影響で、北日本と西～東日本の日本海側で雪や雨。特に北海道は、白滝で最深積雪120 cm、阿寒湖畔で日降雪量67 cm、共に観測史上1位の値を更新するなど大雪。



28日(土)高気圧通過

東進した高気圧に覆われ、晴れた所が多いが、北日本日本海側は寒気の影響で昼頃まで所々で雪や雨。午後は東シナ海に低気圧が発生し、雨域が沖縄・奄美から西日本に拡大。



今月のひまわり画像—2015年2月

オーストラリアに相次いで上陸した2つの Tropical Cyclone

第1図は2015年2月19日09時, 21時, 20日09時(日本時間)のオーストラリア北東部(クイーンズランド州及びノーザン・テリトリー付近:第2図参照)の赤外画像である。各画像の記号A近傍には Tropical Cyclone「Lam」(ラム), B近傍には同「Marcia」(マーシャ)に伴う雲域がある。なお各時刻のオーストラリア気象局による速報解析強度を図中に示した。

19日03時のオーストラリア気象局の予報では、「Lam」は20日03時には955 hPa, 90 kt (1 kt≒0.51 m/s)まで発達して、最盛期にオーストラリアの北部沿岸に上陸する可能性が高いとし、当局は住民に避難を呼びかける情報を発表していた。一方「Marcia」については、19日21時に985 hPa, 55 ktまで発達するものの、それがピークであるとしていた。しかし実際には「Marcia」は19日21時の赤外画像では明瞭な眼が確認できるほど発達し、同日12時~18時の6時間で中心気圧は約50 hPa 低下、最大風速は45 kt強まる急発達をしたため、クイーンズランド州は急速「Marcia」に対しても大規模な避難を呼びかける情報を発表した。

南太平洋(特にオーストラリア周辺)のサイクロンは、北西太平洋の台風と比べて雲域のスケールは小さく、急発達及び急衰弱することが知られているが、今回の「Marcia」の急成達は気象庁を含めほとんどの気象機関の数値予報モデルで予想ができていなかった。

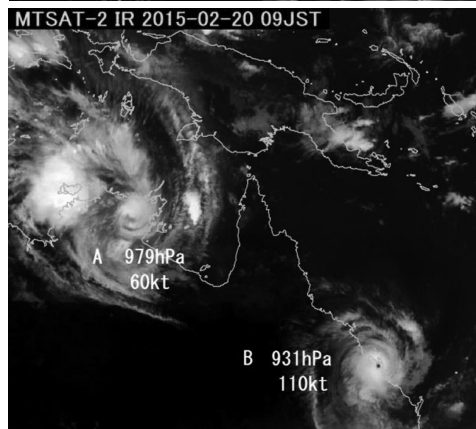
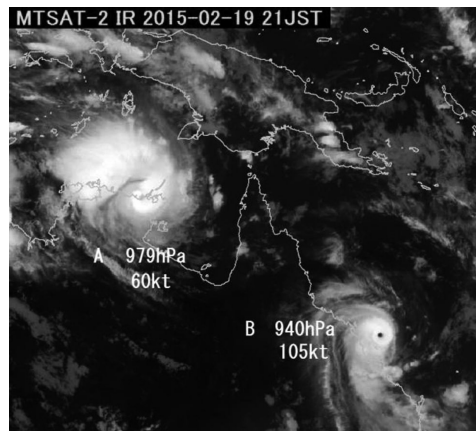
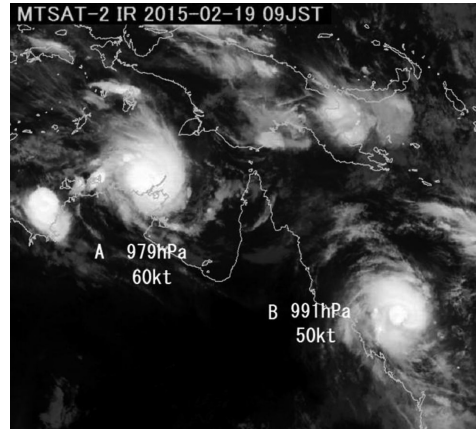
「Lam」, 「Marcia」共に上陸後は急速に衰弱し、「Lam」は21日09時に、「Marcia」は22日09時にそれぞれ消滅した。

この2つの Tropical Cyclone の相次ぐ上陸により、クイーンズランド州及びノーザン・テリトリーでは、住宅の倒壊や停電など大きな被害があったものの、死者や行方不明者・重傷者などの人的被害の報告が無かったのが幸いであった。

(気象庁予報部予報課 西村修司)



第2図 オーストラリアの州及び準州。
(グーグルマップより転載)



第1図 2015年2月19日09時~20日09時(日本時間)の12時間毎のオーストラリア北東部付近の赤外画像。